



レーシングサービスワタナベの本社にて。まずは現在プリンスが装着しているホイールをフェンダーの関係性を細かく確認し、ホイールを外します。現在は履いているホイールはENKEIのRACING RPF1。ホイールは前後共にPCD114.3 8J 17インチ オフセット+35。というスペック。フロントには22ミリ、リアにはもっと分厚いスペーサーが組み込まれておりました。



まず最初に試してみたのは8スポークのBタイプ。どうしてもスポークとキャリパーが干渉してしまい、それを防ぐために、約13ミリほどのスペーサーを入れると、フェンダーから6ミリホイールがはみ出してしまいました。



ということで、今度はキャリパークリアランスが大きく取られたデザインのF8シリーズの16インチ7.5Jをセット。しかし、リアにディープリムのRタイプを入れることを考えると、奥行き感が薄く、ちょっとバランスが悪いのではないかとこの見解に。



キャリパーに干渉せず、彫りの深いデザインということで、砂型のF8シリーズ。16インチの8Jオフセットは±0で、ドンピシャ綺麗に取りました。リムの張り出しも十分にあり、さらに、スポークのデザイン自体も奥行き感バッチリ。これでフロントのホイールは決定です。



ワタナベ…キャリパーが大きいのでスポークに当たっちゃいますね。当たらないところまでスペーサーを噛ませたとすると、今度はフェンダーから6ミリホイールがはみ出してしまいます。
編集部…はみ出すのはまずいですねえ。
ワタナベ…じゃ、フロントは他のタイプをいくつか試してみよう。リアはドラムなんで、Rタイプをオフセットトゼロで8Jは行けると思っていますよ。
編集部…うーん、それは相当裕好良さそうですね。

WILSON MANIFOLDS

KIRKEY RACING FABRICATION

ATI PERFORMANCE PRODUCTS RACE TO WIN!

編集部…こんにちはー。
ワタナベ…ども渡辺です。始めまして。
編集部…初めまして。よろしくお願ひします。
ワタナベ…じゃ、フロントから行きましようか。おおお、随分スペーサー入れてますねえ。フロントは、スバルのキャリパーが入ってるんですね。コシだとサイズ的には16インチが妥当ですね。15はちょっと厳しいでしょう。ホイールなんですけど、まずはRタイプから試してみましよう。
編集部…よろしくお願ひします。

所…プリンス、ホイール換えようかと思つて。
編集部…それはいいですねえ。何にするんですか？
所…ワタナベとか良いんじゃないかなあと。合うやつあるかなあ？
編集部…おそらくあると思いますよ。ワタナベの場合、ワンオフでの製作もやってくれると思つて、最悪作つてしまつと言つてもアリんじゃないですか？
所…よし、ワタナベに聞いてみよう!!

04 Wheel

プリンスイメチェン大作戦 ディープリムのエイトスポーク

完成から約5年が経過したプリンス。そろそろなんか手を入れてみたくなってきました。オーバーフェンダーの国産旧車といえば、やっぱりディープリムのワタナベ。うーん、相当カッコ良くなりそうな予感。

レーシングサービスワタナベ 0120-811-562 www.rs-watanabe.co.jp/



横浜にあるレーシングサービスフタナベの社屋内をちょっと見学。ホイールそのものの製作は、茨城にある工場にて行われ、横浜では最終的な仕上げ作業が行われております。ストックヤードには、まだ穴の開けられていないでさばりのエイトスポークがズラリ。オフセットやPCDなど、様々なクルマに合わせてワンオフで製作されているそうで、その作業は全て職人の手によって丁寧に行われるのです。オールメイドインジャパン。日本の誇るべき伝統のホイールなのです。

るおじいさんがいたり、ほのぼのとした路地の脇でプリンスのオフセットに関してアーでもないコーでもない盛り上がりがありました。

所：昭和40年代だよ、この風景は。俺が高校の頃、ちよっと上の先輩達が自分の家の前でホイール入れ替えたりしてたあの風景とそっくりだもん。プリンスがジャッキアップされている写真あるじゃん、あれなんか、俺が高校の時に撮った写真って言うてもわかんないと思うよ。良いよね、こっぴつ写真が載っている雑誌って。面白いと思いますよ。あの有名なフタナベの本社がこんな風景だなんてさ、皆さん知らないもの。あー、面白い。

編集部：おはようございます。
所：やあやあ。
編集部：フタナベの調査に関してご報告させていただきますと思ひまして。
所：どうだった？
編集部：写真撮ってきたんで、ちょっと見ていただいても良いですか？
所：良いじゃん！！
編集部：リアは、かなりディープなリムが履けるんですけど、フロントはキャリパーとの干渉の問題があつて、Rタイプは無理でした。
所：ほおほおほお。なるほどね。
編集部：とはいえ、なるべく彫りの深い砂型のF8をオフセット土ゼロで履くと、かなり良い感じになっていると思うんです。
所：いいんじゃないの？しかし、リアは凄いことになってるねえ。
編集部：はい。8Jから試して、結局8.5Jに落ち着きました。あと、色なんですけど、どんなイメージですか？黒やブロンズもセレクト可能です。
所：うーん、白っぽいシルバーが良いんじゃないの？
編集部：了解シマシマ。
所：しかし、フタナベの本社は凄いとこにあるねえ。路地でクルマリフトアップしちゃってるんだ(笑)。
編集部：そうなんですよね。脇には自転車に乗ったおばさま達が延々立ち話してたり、放し飼いの犬を散歩してい

俺が高校の時に撮った
写真だって言うても
わかんないと思うよ



リアはRタイプの8J×16インチからテスト。最初に採寸していたフェンダーとホイールのクリアランスの数値から、リムを出せる限界を探ります。結果、8.5J×16インチのオフセット-6という結論に。装着するタイヤによって、若干横幅や外径が変わるので、少しだけ調整シロを残したオフセットとなっております。



ハブに付いているのは8Jで、左側に置いてあるのが8.5J。まだ穴を開ける前のホイールなので、装着してのテストはできませんでしたが、計算上はバッチリ合うことになっております。フロントよりも太くなるので、リアタイヤもワンサイズ太いモノを装着予定です。



前後、フタナベを履いた状態のイメージ図。リアからの眺めは迫力満点。国産旧車にはやっぱりディープリムのフタナベが絶対的に似合うのです。

